

中小企業海外展開支援事業「医療の質を高める地域医療情報ネットワークシステム普及・実証事業」の事例報告会開催

2016年5月31日

ベトナムでは、保健医療の水準やサービスに地域間格差があり、地方郡やコミューン等の下位の医療機関では、医薬品、医療機器、医療人材の質と量に制約があるため、多くの国民は下位医療機関を飛び越えて上位医療機関での診察を選択することから、省病院や都市部の国立病院などに患者が過度に集中する事態がおこっています。また、日本のように、各医療機関の間で患者情報を共有し、連携して医療サービスを行えるような地域保健医療ネットワークが存在していません。このような背景から、JICA は、地域連携医療の課題を共有する株式会社テクノプロジェクト（島根県）、ゲアン省保健局を実施機関とし、医療情報ネットワークシステム（まめネット）のゲアン省モデルを構築することにより、医療の地域間格差の解消、医療の質向上を図って参りました。本事業の協力期間（2015年2月～2016年9月）の終了を目前に、5月31日、保健省の協力を得て、ゲアン省保健局、株式会社テクノプロジェクト、リンクス社の主催により、事例報告会および現地医療機関視察が実施され、ベトナム全土の医療関係者（各省保健局 IT 担当者等）約 200 名を対象に、国内では未だ成功事例が少ないこれまでの取り組みが紹介されました。

報告会では株式会社テクノプロジェクト、リンクス社、事業展開中の医療機関代表者より、本取り組みが地域医療の連携強化だけでなく、保険対応、紹介状、処方箋発行など、IT 活用、電子化を通じた業務改善にも資するものであるとの報告があり、関係者がまめネット（ベトナム版は「Mame- NET」）を高く評価していることが伺えました。JICA ベトナム事務所増田次長は、「ベトナムの人々が適切な医療サービスを適切な場所で受けられるよう、地域連携医療の拡充に取り組んでいる。本日の報告を

契機に、地域医療情報ネットワークシステムへの理解が深まり、関心が寄せられることを期待する」と述べました。また、ゲアン省保健ブイ・ディン・ロン局長は、「今後さらに他社からの協力も得て、全国普及に向けて保健省との連携を期待する」と述べられ、事業完了後のゲアン省全土およびベトナム全国への本格導入についても可能性が伺えました。

さらに、本事業の関係者と情報交換を続けてきた JICA 技術協力「北西部地域医療サービス強化プロジェクト」からは、JICA 専門家に加え、対象6省の IT 担当者ほか保健副局長や省病院副院長らも参加し、ゲアン省での取り組み事例に大きな関心を寄せるとともに、セミナー開催後もお互いの取り組みを共有しつつ、地域医療の連携強化を進めています。

